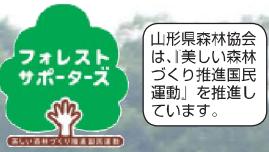


森林やまがた増刊号 「やまがた緑環境税特集」



平成23年6月4日に遊学の森で開催されたやまがた森の感謝祭で、高橋副知事が宮城県森林インストラクター協会の方々やみどりの少年団など県内の参加者と一緒に、「東北各県の皆さんと共に元気ある東北の再生を目指し、森づくりから頑張っていこう」と力強く宣言しました。



県民会議における荒廃森林の整備状況調査(大蔵村)



村山地域「森の感謝祭」(大石田町)

森づくりの輪が広がっています!
6月第1土曜日は「やまがた森の日」
森づくりの輪に参加しましょう。

– 森林やまがた増刊号 目次 –

やまがた緑環境税の評価・検証と今後のあり方について… 2

税の評価・検証及び今後の方向について…………… 3

税を活用する事業の考え方と事業展開について

【5年間実績】…………… 4

平成24年度からの森林整備について…………… 5

各地域での環境保全を重視した森林整備… 6～7

各総合支庁での県民参加の森づくりの推進… 8～11

自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進

…………… 12～13

新たな森づくりの推進体制の整備について…………… 14

県民の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森を守る事業に活かされています。



やまがた緑環境税の評価・検証と 今後のあり方について

やまがた緑県民会議 議長 高橋教夫

山形県においては、荒廃のある森林を再生し、活力ある森林を未来に引き継ぐため、平成19年度に「やまがた緑環境税」を創設し、施策を展開してきました。

施策の展開にあたっては、森林審議会からの答申に沿って、「環境保全を重視した施策の展開」、「21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築」、「新たな森づくりの推進体制の整備」の三つの柱立てにより、森林の有する県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の公益的機能の維持増進及び持続的な発揮に向けた事業に取り組んできました。

今年度は、やまがた緑環境税条例が施行されてから5年目を迎え、これまでの税を活用した取組みの成果について評価検証するとともに、現状や課題を踏まえた今後のあり方等について、昨年度に引き続き検討を重ねてきました。

検討に当たっては、一般県民、法人、森林所有者、森林組合、森づくり活動団体を対象にしたやまがた緑環境税に関する意識調査や、県民及び市町村を対象にした意見交換会を実施し、これらの調査結果や意見等をもとに、「やまがた緑環境税事業評価・検証プロジェクトチーム会議」及び「やまがた緑県民会議」において、それぞれ延べ6回にわたり協議してまいりました。

環境保全を重視した森林整備については、目標面積の達成に向け順調に整備が進んでいるほか、県民参加の森づくりについては、森づくりに取組む団体数や参加者数が、税導入後年々増加しているなど、森林や自然環境の重要性に対する理解が深まり、これらを県民みんなで守り育てる意識の醸成が図られてきております。

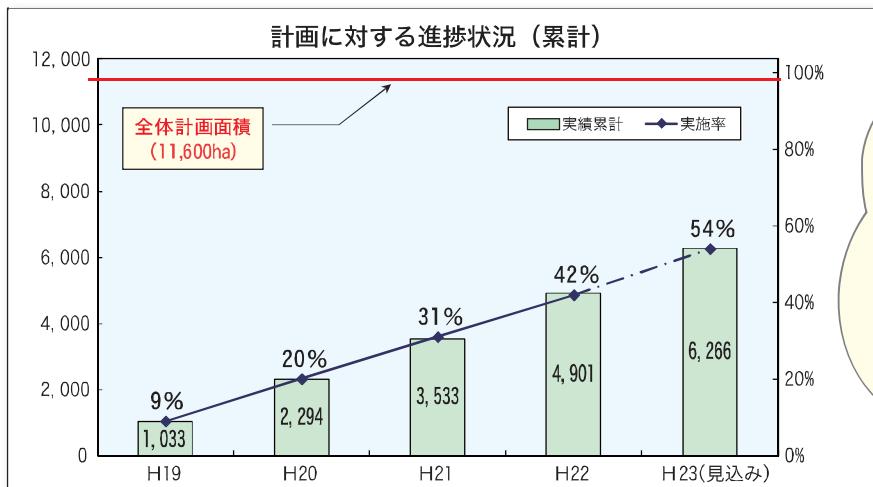
こうしたことから、所期の目的達成に向けて、やまがた緑環境税を活用した事業が着実に展開されているものと考えております。

ただ一方で、ナラ枯れ被害による荒廃森林の増加等の新たな課題への対応や企業を含む多様な主体の参加による森づくりの一層の推進、森づくり活動の質的向上などが求められています。

のことから、国における制度改正に伴う新たな補助制度の活用、森づくり活動へのサポート体制の強化など、より効果的な施策として再構成し、引き続き、森林の有する公益的機能の維持増進と持続的な発揮に向けた施策に取り組んでいく必要があると考えます。

最後に、この新たな森づくりの取り組みが、県民の皆様の理解と協力を得て、県民挙げての運動となり、「県民みんなで支える新たな森づくり」の輪が、県内各地に大きく拡がることを強く期待します。

やまがた緑環境税を活用した森林整備の進捗状況



平成19年度から
平成23年度までの5年間の
整備面積累計は、6,266haで、
平成28年度までの10年間の
計画量11,600haに対する
進捗率54.0%です。

やまがた緑環境税の評価・検証及び今後の方向について

■これまでの経緯

県では、荒廃のある森林を再生し、活力ある森林を未来に引き継ぐため、平成19年度から「やまがた緑環境税」を活用し、県民みんなで支える新たな森づくりを推進してきました。



第3回やまがた緑県民会議(9月5日)



みどり県民会議高橋議長から生活環境部長へ
「やまがた緑環境税」
報告書の提出



■今後の方向

この報告を受け県では、税活用事業ごとの制度設計を進め、平成24年度からの事業が、より効果的に進展するよう事業全体の再構成を図ったところです。

今回はその内容について、やまがた緑環境税の三つの施策ごとにお知らせします。

I 環境保全を重視した施策の展開

新たに森林整備を必要とする荒廃森林を含め、県民生活に影響を及ぼす懼れがある森林を着実に整備するため、国庫補助を最大限活用する事業体系へ再編を図り、森林整備の進捗速度を上げてまいります。

また、バイオマスエネルギー利用等の拡大を図るため、間伐材の搬出に対する支援を拡充し、森林資源の循環利用を一層促進していくこととしております。

II 21世紀にふさわしい県民と森林との関わりの構築

幅広い参加による森づくり活動を推進していくため、「一般県民による森づくり」「市町村が進める森づくり」、「企業が進める森づくり」を3本柱に掲げ、事業を展開してまいります。

【一般県民による森づくり】

森林ボランティア団体等が持続的に活動できる方向へ転換を図っていくため、新たにテーマ助成を公募事業に設定し、今後は、より主体的に森づくりに関わる団体の育成をねらいとして支援を行ってまいります。

【市町村による森づくり】

市町村と地域の連携のもと農山村の活性化を図っていくため、森づくりの目標を定め、里山再生アクションプランに沿って計画的に実施する交付金事業を引き続き支援し、森づくり活動等をさらに充実してまいります。

【企業による森づくり】

里山資源を活用した地域交流や里山地域の活性化を図る「やまがた絆の森プロジェクト」を促進するため、企業へのアンケート調査等を通して、新たに森づくり活動を検討している県内外の企業に対して、積極的に本県の魅力等の情報発信を行い、参画企業の拡大を図ってまいります。

III 新たな森づくりの推進体制の整備

森づくりサポート体制を構築するため、「やまがた公益の森づくり支援センター」が、県民参加の森づくりを促す総合的な支援を引き続き行っています。さらに、「森の感謝祭」の開催などの普及啓発を充実させるとともに、県民が気軽に森づくりに参加できるよう、場所の確保や活動成果の「見える化」を進め、森づくり活動の一層の進展に努めてまいります。

■おわりに

これら税活用事業の推進にあたっては、引き続き「やまがた緑県民会議」による評価検証・提言を受けながら、着実に進めてまいりたいと考えております。

〈やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と事業展開について(5年間実績)〉

H19~23 やまがた緑環境税活用事業

3,155,871千円(3月末見込み)

I 環境保全を重視した施策の展開 (2,406,505千円)

① 環境保全を重視した森林整備の推進 (2,406,505千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】 ◇荒廃森林緊急整備事業
事業量 森林整備面積 6,265ha 整備に必要な作業路開設 55,484m(森林課: 2,243,354千円)

スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ誘導 事業量 整備面積 601ha 作業路開設 8,091m

広葉樹を導入するための強度の間伐や植栽、作業路の設置など



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ誘導 事業量 整備面積 4,158ha 作業路開設 60,865m

間伐や作業路の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施設を一元管理し、森林の公益的機能を維持する仕組みを構築



～多様な樹齢からなる森林が育まれ、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～



病害虫などで荒廃した里山林の再生 事業量 整備面積 1,507ha 作業路開設 2,249m

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



② 環境保全に配慮した資源循環利用の促進 (163,151千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】

◇森林資源循環利用促進事業

事業量 101,292m³

(森林課: 109,657千円)

合板、パレット、ペレット、燃料用チップ等間伐材の総合的利用のための搬出支援



◇広葉樹林健全化促進事業

事業量 24,382m³

広葉樹林の伐採と伐採木の利用を図り更新による森林の健全化の推進及びナラ枯れ予防対策を実施

◇環境保全型人工林誘導事業

事業量 52ha

高齢級の人工林を長伐期の折伐林に誘導するために、搬出を前提とした抜き切りを支援した。

◇木の香るやまがたの街づくり事業

(森林課: [H19.20] 17,467千円)

「やまがた木づかい運動」の一環として、県産木材の利用拡大を図るために、県産木材製品の開発、設置、普及促進などの取り組みについて支援した。

II 21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築 (635,884千円)

① 県民参加の森づくりの推進 (557,156千円)

【県民みんなで支える森・みどり環境公募事業費】(みどり自然課: 125,506千円)

NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動の支援

事業項目
及び例示

- 1 森林・自然環境学習 (学校やPTAとの協働による環境学習、森づくり体験)
- 2 自然環境の保全活動 (河川の水環境、希少野生生物の保全活動)
- 3 豊かな森づくり活動 (里山林の保全活動)
- 4 森林資源の利活用 (県産材を使った木製品の導入、間伐材の利活用)

【みどり環境交付金事業費】(みどり自然課: 431,650千円)

市町村が地域の課題に応じ、主体的に取り組む森づくり活動等の支援

事業項目
及び例示

- 1 森林・自然環境学習 (学校林等の整備、活用、緑の少年団を対象とした取組み)
- 2 自然環境の保全活動 (河川の水環境保全、希少野生生物の保全)
- 3 豊かな森づくり活動 (地域住民や企業との協働による森づくり)
- 4 森林資源の利活用 (県産材の普及啓発、間伐材やバイオマスの利活用)

② 自然環境保全対策の推進 (50,032千円)

【動物共生の森づくりモデル事業費】

(みどり自然課: 5,722千円)

野生動物との共存を図る緩衝林帯整備技術の蓄積

【自然環境総合モニタリング事業費】

(みどり自然課: 30,015千円)

自然環境の変化を早期に察知する調査検討

【大型鳥獣等野生復帰事業費】

(みどり自然課: 5,040千円)

傷病等で救護された野生鳥獣復帰支援

【ナラ枯れ被害対策実証事業費】

(森林課: [H20~21] 9,255千円)

合生集合フェロモンを用いた大量捕殺手法の実用化に向けたトラップによる実証等

III 新たな森づくりの推進体制の整備 (113,482千円)

【やまがた緑県民会議費】

(みどり自然課: 4,579千円)

緑県民会議の開催、緑環境税制度・税活用事業の評価検証

【新たな森づくりの普及啓発事業費】

(みどり自然課: 40,042千円)

普及啓発、森づくり行事の開催、やまがた絆の森プロジェクトの実施

【森づくりサポート体制推進事業費】

(みどり自然課: 1,807千円)

県民参加の森づくりに参加、企業の森づくり活動の支援

【森林資源の活用による低炭素社会構築事業費】

(森林課: 746千円)

森林整備等による二酸化炭素の吸収・削減量の評価・認証制度の試行

【やまがた緑環境税徴収取扱市町村交付金/やまがた緑環境税広報事業費】

(税政課: [H19] 28,617千円)

③ 自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進 (28,696千円)

【自然環境学習推進事業費】

(みどり自然課: 7,212千円)

指導者の育成支援や教材等の作成、学校林活用型支援モデルの実施



副教材「やまがたの森林」・指導者用ガイドブック

【総合支庁実施事業費】(18,406千円)

【元気な森の学校推進事業費】

(教育やまがた振興課: 3,406千円)

少年自然の家を活用した森林環境学習の実施

平成24年度からの森林整備について

【平成24年度からの事業体系について】

■スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ誘導

(針広混交林整備)

広葉樹を導入するための強度の間伐や植栽、森林作業道の設置など



平成24年度から
新たに追加され
る体系



やまがた緑環境税
による整備

事業主体：県
事業形態：委託事業



針広混交林化を進める
ことを目的とする国庫
補助事業の活用
(環境林整備事業)

事業主体：県
事業形態：委託事業

■スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ誘導

(長期育成林整備)

間伐や森林作業道の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を
一元管理し、森林の公益的機能を維持する仕組みを構築



やまがた緑環境税
による整備

事業主体：県
事業形態：委託事業



面的にまとまりを持って
搬出間伐を行うことを目的
する国庫補助事業の活用
(森林環境保全直接支援事業)

事業主体：森林組合等事業体
事業形態：補助事業

■病害虫などで荒廃した里山林の再生

(里山林整備)

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



やまがた緑環境税
による整備

事業主体：県
事業形態：委託事業



幹線道路沿いなど景観が
悪化している森林の整備
を目的に市町村に対して
補助事業を実施

事業主体：市町村
事業形態：補助事業

【平成24年度から整備対象に追加する森林】



管理放棄され、荒廃した保安林



ナラ枯れ被害により倒木等の
二次被害の恐れがある森林



幹線道路沿いなどで
景観が悪化している森林

各地域での環境保全を重視した森林整備

大規模施業団地の設定による効率的な森林整備の取り組み

西川町沼山地区の取り組み

西川町内では、効率的な森林整備を進めるため、地区と西川町・西村山地方森林組合が協議を行なながら、地区ごとに施業区域の取りまとめを行っています。平成23年度は、平成22年度に引き続き、沼山地区でスギの間伐を実施しました。

沼山地区では区有林を中心に森林整備を実施する計画でしたが、区長をはじめ地元関係者や西川町・西村山地方森林組合が協力し、説明会を開催するなど区有林周辺の森林所有者に施業団地への参加を呼びかけました。その結果、計37名の森林所有者と協定を締結し、2つの施業団地（面積は74haと25ha）を設定することができました。

多数の森林所有者からなる施業団地であるため、境界確定作業や協定書の作成、境界木保護など様々な課題もあり、現地確認と打合せを何度も繰り返すなど苦労もありました。しかし、選木や伐採作業

は効率よく実施することができました。また、まとまって整備された森林では、土砂災害防止機能や水源かん養機能などの森林の多面的機能がより発揮されるものと考えられます。

今回の森林整備を通して、森林境界の明確化や大規模施業団地の設定ができたことは、今後の森林整備や木材・林産物等の利用につながるものと考えております。森林境界の明確化や施業団地の設定には、地元関係者や市町村・森林組合の連携協力が不可欠です。これからも、さらに協力を深めながらより効率的・効果的な森林整備を進めていきたいと考えております。

【村山総合支庁森林整備課】



説明会の開催状況

ナラ枯れ2次被害防止の緊急伐採と有効活用

戸沢村神田地区の取り組み

最上地域におけるナラ枯れ被害は、平成14年に戸沢村西部の最上川流域での発生に端を発して近隣市町村へと扇状に拡大し、平成20年度は金山町での発生が確認されたことにより、管内全市町村に被害が拡大しました。

本県のナラ林は、森林全体の約3割に及ぶ広大な面積を占め、身近な里山や豊かな自然環境の重要な構成要素となっていることから、やまがた緑環境税を活用した「里山林の再生」として、病害虫などで荒廃した森林の伐採等を行い、森林の早期回復を推進しています。また、公共施設や人家・道路等に近接するナラ枯れ被害木が倒木する恐れがある場合は、関係機関と協議・調整し、緊急伐採を実施しています。

「ナラ枯れ被害木の緊急伐採」は、平成21年度からこれまで5市町村で実施いたしました。特に戸沢村では、里山に興味を持ち、地域活動並びに森林環境教育を実践している『神田きこり倶楽部』がナラ枯れ被害木を積極的に引受け、炭づくりに活用するなど、資源の有効活用を図っています。また、最近の活動では東日本大震災への支援物資として、当倶楽部が焼いた炭を提供したことです。

ナラ枯れ被害は、近年減少傾向にあるものの、二次被害の発生は今後増加する恐れがあります。

今後とも関係市町村や森林所有者等と協力し、被害防止の普及啓発並びに被害木の利活用を促進していきたいと思います。

【最上総合支庁森林整備課】



ナラ枯れ被害木の緊急伐採箇所(戸沢村)



神田きこり倶楽部(炭窯をバックに)

各地域での環境保全を重視した森林整備

利用間伐の取り組み

米沢市大平地区 関根地区的取り組み

やまがた緑環境税がスタートして5年が経過し、森林整備が計画的に進んでおります。この事業の中で再生可能な資源を有効活用するために行った“利用間伐”的代表的な事例を2つ紹介します。

1 米沢市大平地区

一つ目は税事業による森林整備を森林組合が委託し、搬出は地元業者が行った事例です。森林所有者が県外在住だったことから、森林の管理を地元の素材生産業者へ依頼しており、この業者の積極的な働きかけで利用間伐に向けた取組みが始まりました。対象森林は形質の悪い木が多くだったので、利用間伐を進めるのは大変でしたが5.8haとまとまりがあったので効率的な作業を進めることができました。主な利用先は、チップや合板等となっています。

2 米沢市関根地区

次に税事業による森林整備と搬出を森林組合が実施した事例です。面積的には1.1haと小さいものの、林が道路沿いであったことから森林組合の積極的な働きかけにより実施する運びとなりました。また、伐採する木の選定時から森林所有者に立会いをお願いするなど、きめ細やかな対応が利用間伐の実施につながりました。主な利用先は合板となっています。今回紹介した事例では、材の用途を建築材に限定することなく、合板やチップ（場合によっては燃料）等へ流通先を拡大する取組みを行ないました。これからも間伐材を可能な限り“利用”し、森林資源の有効活用を通じた持続的な森林管理を促進してまいります。

【置賜総合支庁森林整備課】



米沢市大平地区の整備森林

「搬出間伐推進」に向けた モデル的な取組み

遊佐町吹浦地区 の取り組み

1 施行地の概要

庄内総合支庁では、遊佐町吹浦地内において、遊佐町と森林所有者の協力のもと、21haの森林整備を実施しました。同施行地は、秀麗「鳥海山」の裾野に位置し、周囲には集落や国道7号線が存在するなど、多くの方々の目に触れる風光明媚な地域ですが、環境保全の観点から手入れの行き届かないスギ人工林の整備が求められていました。

2 整備内容

本事業では、北庄内地域の「搬出間伐推進」に向けたモデル的な取組みと将来を見据えた持続的な森林管理を推進するため、山土場までの搬出材積を1,000m³、伐採木の搬出を可能とする作業道の開設を約500mとし計画を行いました。事業は、地元の森林組合が受託し、既存の林道と新たに開設した作業道を活用しながら、プロセッサ・ハーベスター・グラップル・フォワーダなどの高性能林業機械を駆使し、伐採・集積・搬出などの作業を一連のシステムとして効率的に行いました。最終的には、

作業道の開設が1,240 m、搬出材積が1,130m³となり、これらがパルプやチップなどとして有効活用されることになりました。

3 最後に

間伐後の林内には、柔らかな光が差し込み、間伐後の森林空間は見違えるような美しさとなりました。搬出間伐の推進には、作業道等のインフラの整備や地域の実情にマッチした搬出間伐の取組みが加速し地域に定着することが期待されます。

【庄内総合支庁森林整備課】



搬出間伐の状況

『村山地域森づくり報告会』

平成24年1月28日(土) 天童市総合福祉センター

やまがた緑環境税を活用した森づくり活動も今年度で5年目を迎え、村山総合支庁管内でもさまざまな活動が展開されています。今回の報告会は、管内で公募事業及び交付金事業を実施している団体と市町及び一般参加者の皆様が幅広く情報を共有し今後の活動の参考となるよう、1会場で開催しました。

まず、ポスターセッションでは、今年度活動を行っている管内28の全団体及び14の全市町が今年度の活動をまとめたポスターを掲示し、それぞれのポスターの前では、参加者（質問者）との間で活発な意見交換が行われました。また、公募事業で参加者が間伐した材料を使って製作したベンチや、参加者が県産間伐材で作成した本棚などの見本も展示されました。

活動報告では、活動の内容や成果がより詳しく参加者に伝わるよう、発表団体数を12団体として発表時間を8分、質疑応答を2分に設定し発表をしていただきました。それぞれの発表からは、森づくり団体会員や参加者の皆様が、積極的かつ楽しみながら活動している様子が伝わってきました。

森づくりボランティア団体等の活動は、年々充実した内容へとステップアップし、また各市町が実施する活動も、地域課題に対応したさまざまな手法で実施されてきています。近年、病害虫の被害などにより森林環境が大きく変化する中で、私たちの生活に身近な里山の森林を守り育てていくには、長い森の時間軸を考えた地道な森づくり活動は欠かせません。

地域での森づくり活動が将来の健全なやまがたの森林につながることを確信し、今後も積極的な活動に期待いたします。



ポスターセッションでは活発な意見交換が行われた



約120人が参加した活動発表



間伐した材料で製作したベンチも展示

『私たちの森づくり』

みどり環境公募事業・楯山愛好会

【活動者から】

私たち楯山愛好会のフィールドは村山市の楯岡地区、有名なバラ公園に隣り合った場所にあり、また、楯岡小学校の裏山にもなっています。かつては地区民の燃料の採取場であったり、さまざまなレクリエーションの基地だった里山でしたが、時代の流れとともに、あまり見向かれなくなってしまいました。7年前に里山の保全活動に立ち上がり、現在211名の会員で様々な活動を展開しています。中でも有名な「国蝶オオムラサキ」の復活などに積極的に取組んだ結果、4年前に見事復活に成功したことは会員の誇りであり、また「里山づくりの成果」であります。その他、小学校を巻き込んでの「遊学の森づくり」や誰でも参加自由な様々な観察会、山で行うかつての伝統行事の再現などを実施しています。また、林業のプロを招いてチェーンソーを使っての里山整備の実践などに汗を流しています。



チェーンソーの安全な使い方を学ぶ

『天童市みどり環境フェア』

みどり環境交付金事業・天童市

【活動者から】

平成23年5月28日(土) 天童市わくわくランド多目的広場を会場に、天童市みどり環境フェアを開催しました。震災発生後、市内で開催される初めての大きなイベントでしたが、約2,000人の方々からご来場いただきました。

このフェアは、森林資源の利活用と循環型社会構築を目的に、平成19年度から開催しているもので、今回で5回目となり、広く市民に親しまれています。当口は、緑の少年団による緑の宣言に続き、ジューンベリーの苗木を来場者にプレゼントしました。また、会場内には青空木工体験、地球温暖化防止などの各コーナーが設けられ、会場の所々から賑やかな笑い声や歓声があがっていました。ステージ上では、間伐材を使った幼児積み木競争や震災復興を元気づけるダンスパフォーマンスが行われ、子どもからおとなまで緑と木に親しんだ1日でした。

今後も豊かな森林や自然を未来につなぐために、森林情報の発信を続けて行きたいと思います。



間伐材を使った積み木競争

各総合支庁での県民参加の森づくりの推進

最上総合支庁の取組み

「最上地域森づくり報告会」

平成24年1月15日(日) 新庄市
「新庄市民プラザ3階小ホール」

雪の降る中、開催された最上地域森づくり報告会には、100名余りの参加者が集いました。

報告会では、本年度の「森づくり活動」の締めくくりとして、森づくりリレー旗の返還がおこなわれました。また、キープ協会の川嶋 直氏の基調講演が「森の中での環境教育その実例と実施方法」と題して、おこなわれました。

その後、管内のみどり環境公募事業、交付金事業及び絆の森事業の実施団体によるポスターセッションをおこないました。力の入った発表をする団体が多く、予定した時間を超過してしまうほどの熱いセッションとなりました。

参加者には、講演と併せて貴重な情報収集、交換の場となりました。



森づくりリレー旗の返還



手づくりポスターで活動発表

『里山の恵みと自然環境学習』

みどり環境公募事業・新庄里山の恵み利活用研究会(新庄市)

新庄市西山地区の地域資源である栗林4ha(350本)を活用し、春には自然環境学習を行いながら、地域の小学生と一緒に栗・桜の植栽を実施したり、シイタケの植菌体験を通して、里山の重要性について学びました。

秋には観光栗園を開園し、宮城、福島、新潟県や県内の団体客718名の来園者があり、地域の活性化と交流人口の拡大に寄与することができました。

来年度は、2年続いた猛暑により枯れてしまった栗の木をチップ材として活用し、栗園内の遊歩道に敷き詰めたり、栗の苗木を植栽したり、植菌したホダ木からのキノコを活用して、交流人口の拡大に努めてまいります。



桜の木の植栽



観光栗園の開園

「次代に誇れる森林文化創成事業」

最上地域の里山林でおこなわれてきた炭焼き、きのこ栽培による森林の利用を進め、地域の活性化に向けた取り組みをしてきたので紹介します。

【八敷代里山活用推進協議会】(真室川町)

八敷代里山活用推進協議会(佐藤儀一代表)では、「源治森山」共有林が40年前から利用されていないため、資源を利用する炭窯を作り、炭の生産に取り組みました。

今では、産直施設で販売するまでになりました。

また、子供達へ山の恵みを継承しようと桜などの植栽をして、地域の山を育む取り組みもしています。



【四ヶ村森林活用協議会】(大蔵村)

四ヶ村森林活用協議会(石川春雄会長)では、「沼ノ台山自由林」をフィールドにマイタケの原木栽培を新庄神室産業高校と連携し、取組んでいます。高校の殺菌施設を利用した植菌作業、伏せこみや収穫を生徒と協働でおこなってきました。3年生からは、今までの活動を通して、森づくりの提案がおこなわれるなど地域資源の活用を生徒とともにしています。



『森づくり・森とのふれあい事業』

みどり環境交付金事業・新庄市

市内中学生を対象に、学校と陣峰市民の森をフィールドにおいて、自然体験学習会「森づくり・森とのふれあい事業」を行いました。

事前学習会を経て、市民の憩いの場である陣峰市民の森を利用し、下草刈、枝打ち、遊歩道へのチップ敷き等の整備を行い、自然環境に興味を持てもらうことができました。

自分たちの力で、「森林を守っていきたい」と中学生の達の強い想いに後押しされ、事業の意義を痛感しました。今後とも継続し、人と森の関わりを大切にし、未来へ引き継いでいきたいと思います。



自然体験学習
(陣峰市民の森)

『置賜地域森づくり報告会』

平成24年1月21日(土) 南陽市中央公民館(えくぼプラザ)

管内で森づくり活動を行っている28団体と全市町、そして総合支庁2課の計38団体が南陽市中央公民館に集まり、標記報告会が開催されました。会場には120名あまりの方々からご参加いただき、自らも公募団体の一員であり、全国インストラクター協会副会長でもある三森和裕さんからコーディネーターをお引き受けいただき、報告会を進めていきました。

なお、今回は15団体から代表して報告をいただき、活動内容や反省、今後の展開など8分間の制限時間内で熱く語っていただきました。

報告された内容は、サクラ植栽や病虫害防除と複合した緑化活動など、団体のみならず地域と共に実施した事例や、動物との共生をテーマとしたもの、また体験学習と連携した活動など、今回で4回目となる報告会も回を重ねるごとに内容に深みが増してきました。

1つの発表が終わるごとに、コーディネーターから質問やコメントをいただき、会場が一体となって報告会を進めていくことができました。



報告会の様子



ポスターセッションの様子

また、会場ロビーには、ボランティア団体の活動を紹介したパネルが所狭しと展示され、参加者のみならず、公民館を訪れた一般の方々からも見ていただくことができました。報告会休憩時に行われていたポスターーションでは、各団体が情報交換などを行う姿もあちこちで見られておりました。

『八幡山サクラの森づくり活動』

みどり環境公募事業・手ノ子地区協議会

【報告会より】

飯豊町手ノ子幼稚園・小学校の裏山にあたる八幡山の丘陵を地域のシンボルゾーンとして整備するため、サクラの森づくりを計画。

専門家を交えての土壤調査や整備計画を経て、今年度は40本の苗木を植栽しました。

また、旅行会社とのタイアップにより、県外観光客との植樹体験も実施するなど、今後とも森づくりの輪を広げていきたいと報告をいただきました。



植樹活動の様子

『県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業』

総合支庁実施事業・置賜総合支庁福祉課

【報告会より】

源流の森を会場として、障がい者も楽しめる森林体験活動を実施。これまでの体験活動をとおして、障がい者、施設職員、森の案内人（インタープリター）など様々な関係者から意見をいただき、常設プログラム化するための検討を重ねています。

報告会では、体験活動に参加した障がい者の方からも参加いただき、障がい者と森林のバリアフリーはもちろんのこと、障がい者と健常者とのバリアもなくなってほしいと報告をいただきました。



体験活動に参加した方からも
報告をいただきました



体験活動の様子

『庄内地域森づくり報告会』

平成24年2月5日(日) 鶴岡市西郷地区農林活性化センター

今年度の庄内地域森づくり報告会は、県内4地区の最後の報告会として、鶴岡市西郷地区農林活性化センターを会場に開催しました。ここは、地元産木材を使用して建てられた木のぬくもりにあふれた施設で、冷暖房にもペレットボイラーを使用するなど、「森づくり」にはとても関係の深い会場です。

当日は、大雪等の影響で参加状況が心配されましたが、みどり環境公募事業・交付金事業を実施している団体・市町のほか、森づくりに興味のある方など参加者数は合計で120名となりました。

最初のポスターセッションでは、みどり環境税を活用した事業を実施している全28団体・5市町がポスターを展示しました。団体によっては、ポスターだけでなく独自の資料などの展示も行われ、活動内容を紹介したり、団体同士の情報交換が促進されたりするなど、有意義なものにすることができました。

続いて行われた森づくり活動報告では、みどり環境公募事業を実施している9団体から活動内容等の発表がありました。いずれも自ら発表を希望された団体ばかりで、いかに活動に積極的であるかが分かります。

今回の活動報告では、里山整備や炭づくり・キノコ植菌体験のほか、イヌワシ等野生生物とのふれあいや、県産間伐材を活用したゴミステーションの製作など、海岸林以外の発表が多く、庄内地域での森づくり活動が海岸林だけでなく内陸部の里山にも広がってきたものと考えられます。

今後もこのような機会を通じ、やまがた緑環境税を活用した森づくり活動の成果等を幅広く発信し、県民参加の森づくり活動の輪を広げていきたいと考えています。



ポスターセッション状況



会場状況

『美しい里山を継承するための自然環境の保全活動』

みどり環境公募事業・地縁団体 松ヶ岡開墾場(鶴岡市)

【活動者の声】

旧庄内藩の開墾場で、国指定史跡である松ヶ岡の里山を後世に継承してゆくため、地域の住民が保全活動や、環境学習等の活動に取り組んでいます。

今年度は下刈や侵入竹の伐採、松枯れに強い松の植栽の他、松くい虫防除の樹幹注入の研修会も開催しました。他団体にも参加を呼びかけたところ、庄内一円から森づくり団体、大学生、市町・森林組合職員等から多数の参加があり、好評を博しました。

またその他、地区の子供会を対象に環境保全学習を開催しました。

保全活動や研修会への参加を通じて、里山の継承と併せて、次代の担い手の育成も図られました。



松くい虫防除(樹幹注入)研修会の様子

『庄内町まるごとトレッキング』

みどり環境交付金・庄内町

【活動者の声】

町内にある丹山や羽黒山等にかかる古道等を活用して、森林の働きや地域の歴史の学習、森林浴を目的としたトレッキングを開催しています。

今年度は北月山登山コース及び、羽黒古道コースでのトレッキングを開催した他、地域住民の協力を得てコースの整備を実施しました。

また、かつて最上地域との交流の要所であった板敷古道の調査を実施し、今後は戸沢村と協力して整備していく構想です。

古道の整備や調査、トレッキングへの参加を通じて、地域住民や参加者の森林や地域の歴史への理解・関心が深まり、森林の整備や利活用についての機運の盛り上がりが期待されます。



羽黒古道の歴史に関する講話の様子

自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進

「子どもたちに伝えたいこと…森にはたくさんあります」

～平成23年度「森林環境学習指導者研修」から～ 【森林研究研修センター】

平成23年度「森林環境学習指導者研修」及び「学校林環境学習推進指導者研修」を開催

県では、学校教育における森林環境学習の実践を支援するため、教職員を対象に「森林環境学習指導者研修」を開催しています。今年度も、8月2日と3日の2日間、西川町の森林研究研修センター試験実習林において、感覚を使った森林体験、森林環境学習のための具体的なアクティビティなど、実践的な内容で実施しました。参加した先生からは「森林と人の生活との深いかかわりについて再認識した」などの感想が寄せられました。

また、今年度2年目となる「学校林環境学習推進指導者研修」では、高畠町立高畠小学校をモデル校として7月14日に開催しました。同校4年生89名による学校林の森林観察路整備とそれを活用した森林学習を実施、「森林の植物の多様性」と「里山林と人の生活のかかわり」について伝えるプログラムを先生方に紹介しました。県内には、合せて1,138haの学校林がありますが、その活用は低い状況にあります。学校林は今後、学習フィールドとして、また地域コミュニティづくりの拠点としてその活用が期待されるところです。

森林は、さまざまな動植物や菌類、土壤、大気などの複雑なつながりの中で成り立っています。そこには、子どもたちに伝えたいことがたくさんあります。今後は、森林と仲良く付き合える子どもたちを育てていくため、森林環境学習を支える地域の人材を育成する新たな取り組みも含め、研修をより充実した内容で実施していきます。



「学校林環境学習のフォローアップ」
四季を通して森林を観察する(春の森)



「学校林環境学習推進指導者研修」
間伐材チップによる森林観察路の整備

『森の中で親子のふれあいを』 【教育庁生涯学習振興課】

県内4地区の少年自然の家では、身近な里山や森林などに家族で親しむ体験プログラム「元気な森の学校推進事業（家族ふれあい体験教室）」を実施しています。

【朝日少年自然の家】『ブナの森探検隊（6月4日～5日）』

キャンプ初心者の家族を歓迎する企画とすることもあり、活動のしやすい朝日少年自然の家の活動地内に今日の寝床となるテントを設置しました。

1日目は、家族で協力してテントを設置したあと、野外炊飯をしました。メニューは焼肉や焼きそばです。ボランティアスタッフの方からも協力してもらひながら、おいしい晩御飯を準備することができました。

2日目は、活動場所を月山のブナの森に移しての活動でした。まだ雪の残る森の中を、県立自然博物園の指導員の方からガイドをしてもらひながら散策しました。新緑の美しさや、動植物が厳しい寒さの中でたくましく生きている姿などに触れることができました。

参加者からは、「とても楽しかった。」「家族でゆっくりと過ごすことができた。」「自然の美しさや強さを感じることができた。」などのたくさんの感想をいただきました。



【神室少年自然の家】『親子ふれあい体験教室（9月25日）』

午前中は、段ボールで作った燻製器を使っての燻製作りとソーセージ、パン作りに挑戦しました。ソーセージは焚き火であぶり、パンは、ダッチオーブンで焼きました。笹かまやチーズの燻製、ソーセージ、パンがとてもおいしそうにできあがり、豪華な昼食となりました。

午後からは、ネイチャーハンティングでした。自然の家周辺の野山を指示に従い回ります。チェックポイントにはスタッフが立っていて、安全に活動できるように見守りながらチェックシートにサインをしました。活動の中では、親子でのふれあいのほかに、家族同士の交流も多く見られました。リピーターの参加も多く、口コミで事業のことを伝えてくれているそうです。これからも、繰り返し足を運んでもらえるような魅力的なプログラム作りに励んでいきたいと思います。



自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進

『動物共存の森学習体験事業』

～野生生物(ツキノワグマなど)と人間の共存を考える～

9月17日に置賜総合支庁西庁舎と置賜野鳥救護所などを会場にして、長井市・白鷹町の高校生40名を対象に野生生物と共に生きる自然環境学習講座を開催しました。置賜地域には豊かなブナ林をはじめとした山林があり、そこには多種多様な動植物が生息しています。こうした貴重な自然環境の森づくりの大切さや野生動物との共存のあり方について学びました。

講座では①「自然や野生動物との共存の具体的な取組み」では、捕獲したクマを奥山に帰す取組みから人間とクマの共存の重要性を学びました。

②「伝統的なマタギ文化を伝承する実践活動」では、小国町に受け継がれているマタギ文化の伝統を守り自然と共生する生き方やその大切さについて学びました。

③「野生鳥獣救護の現地学習」では、会場を置賜野鳥救護所米沢分所に移して傷ついた鳥獣を自然に帰すための救護を学び、全員でサルを寄せ付けないための下草刈りを行いました。

参加者からは、「どれも貴重な体験ばかりで、間近な距離で救護された動物を見たり、自ら下草刈りもできてとても印象に残った」「クマやサルは駆除しているばかりだと思っていたが、保護もしっかり行っていることが分かった」「本を読むだけではなく自らいろんな体験を行うことが大事だと思った」など意見が出されました。

この講座がこれから置賜地域を担う若い高校生等が、地域の自然環境を守り発展させていくことの契機になることを期待します。

【置賜総合支庁環境課】



「サルの緩衝帯での下草刈り」

『県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業』

【置賜総合支庁福祉課】

置賜総合支庁では、平成19年度から「県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業」を実施してきました。これは、外出機会の少ない障がい者の森林利活用を促進するため、管内にある「源流の森」を利用して、障がいに配慮した活動プログラムにより森林体験を実施するものです。

今年度の「自然環境学習事業」は、7月に下肢障がい者11名、聴覚障がい者5名、視覚障がい者2名が参加して森林体験を行いましたが、今回は参加者からの「森に入って樹木に触れたい」という要望に応えるため、未舗装の通路や斜面にコンパネ板を敷いて車椅子でも通行できるようにしました。これにより下肢障がい者の行動範囲が拡がり、森の心地良さを十分に楽しんでもらえる内容で実施できたと思います。森林環境にはバリアがつきものですが、ちょっとした工夫で改善できるという好例だと思います。

また、今年度は事業最終年度であるため、これまでの事業成果の普及を図る観点から、10月に森林体験活動見学会及び事例発表会を開催しました。これは、障がい者のみなさんの森林体験の状況を広く見学していただき、障がい者の森林体験に対する理解の促進を図る目的で開催したものです。この見学会では、障がい者33名（知的障がい者7名、精神障がい者11名、下肢障がい者10名、聴覚障がい者3名、視覚障がい者2名）が森林体験を行い、管内の福祉施設や森林関係団体の方などに活動の様子を見ていただきました。そして、その後に開催した事例発表会では、事業に参加したみなさんの感想等発表と意見交換を行うことにより、障がい者の森林体験に対する理解を深めることができたと思います。

さらに、事業成果を形にする意味で、これまでに検討・実施してきた障がい者向けの活動内容やノウハウを「障がいのある方のための森林体験プログラム」としてとりまとめました。これを「源流の森」の活動メニューのひとつとして活用していくことで、今後とも障がい者の森林体験を継続して行っていくことが可能になると想っています。5年計画で実施してきた当事業は、ここで区切りを迎えるわけですが、「源流の森」における障がい者の森林体験活動が今後とも盛んに行われること、さらには、障がい者のみなさんの社会参加が一層進んでいくことを期待したいと思います。



「源流の森」で森林体験!



森の中でリラックス♪

新たな森づくりの推進体制の整備

『やまがた絆の森プロジェクトの推進』

～平成23年度「やまがた絆の森プロジェクト」の実施状況について～

■やまがた絆の森プロジェクトについて

県では、従来進めてきた「企業の森づくり」に地域振興の視点を加え、企業と地域とが一体となった取組みとして、県が積極的に関与する形で再編成した「やまがた絆の森プロジェクト」を平成21年3月からスタートさせています。これまでに16社の企業と協定を締結、延べ2,500人を超える方が参加し、県内各地で森づくり活動や地域との交流が活発に行われました。また、平成24年度については、平成24年2月8日の合同締結式で、新たに8社（団体）が加わり、計27社（団体）、22地区で森づくり活動を行うこととなります。

やまがた絆の森協定締結一覧

| No. | 締結年月 | 企業名・団体名 | 地区名（名称） | 所在地（協定箇所） |
|-----|--------|---|-------------------------|-----------|
| 1 | H22.3 | キヤノンマーケティングジャパ株式会社 | キヤノンMJグループ未来の森 | 飯豊町 |
| 2 | H22.3 | 株式会社シェルター | シェルター絆の森 | 山辺町 |
| 3 | H22.3 | 株式会社莊内銀行 | 莊銀かねやま絆の森 | 金山町 |
| 4 | H22.3 | 株式会社山形銀行 山形信用金庫 | ぐるっと花笠の森【山形】 | 山辺町 |
| 5 | H22.3 | 新庄信用金庫 株式会社山形銀行 | しんきん結の森 ぐるっと花笠の森【新庄】 | 新庄市 |
| 6 | H22.3 | 株式会社山形銀行 米沢信用金庫 | ぐるっと花笠の森【米沢】 | 米沢市 |
| 7 | H22.3 | 株式会社山形銀行 鶴岡信用金庫 | ぐるっと花笠の森【鶴岡】 | 鶴岡市 |
| 8 | H22.3 | 山形ゼロックス株式会社 | かねやま絆の森 | 金山町 |
| 9 | H22.7 | 国土防災技術株式会社 | 南陽「草木の森」 | 南陽市 |
| 10 | H22.8 | 財団法人イオン環境財団 | 南陽イオンの森 | 南陽市 |
| 11 | H22.9 | 株式会社山形銀行 | やまぎん蔵王国定公園の森 | 山形市、上山市 |
| 12 | H23.2 | NDソフトウェア株式会社 | NDソフト・こもれびの郷 | 南陽市 |
| 13 | H23.2 | 株式会社おーばん | おーばん琴の森 | 尾花沢市 |
| 14 | H23.2 | 社団法人山形県トラック協会 | 山形県トラックの森 | 山辺町 |
| 15 | H23.12 | マックスバリュ東北株式会社 イオンリテール株式会社 株式会社ジョイ | イオンの森 | 飯豊町 |
| 16 | H24.2 | 財団法人田川建設会館 | 神の宿る森はぐろ | 鶴岡市 |
| 17 | H24.2 | 日東ベスト株式会社 | にしかわ絆の森 | 西川町 |
| 18 | H24.2 | 株式会社パレス平安 | パレスグランデール絆の森 | 山形市 |
| 19 | H24.2 | 株式会社滝の湯ホテル 東北パイオニア株式会社 株式会社新東京ジオ・システム 株式会社天童木工 | 天童・不思議の森 | 天童市 |
| 20 | H24.2 | ホームック株式会社 | ホームックの森 | 尾花沢市 |
| 21 | H21.3 | 日本たばこ産業株式会社 | J Tの森 鶴岡 | 鶴岡市 |
| 22 | H21.10 | 株式会社ウンノハウス | ウンノハウスの森 | 飯豊町 |

※No.21,22は、県との協定であり活動内容が絆の森プロジェクトと合致しているため、やまがた絆の森として扱っている。

県内各地に広がる 「やまがた絆の森」



『新たな森づくりの普及啓発事業について』

～平成23年度やまがた緑環境税普及啓発の取り組み～

県では、県民の皆さんに「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途等、制度全体の仕組みの周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。平成23年度に実施した主な取り組みを紹介します。

(1) やまがた森の感謝祭の開催

「やまがた森の感謝祭2011」(6/4 金山町 県遊学の森)

当日は、天候に恵まれ、県内各地から1,200名の方々にお越しいただき、盛会に開催することができました。会場では、森づくり活動のほか木工クラフトやチエーンソーアートなど各種コーナーが設けられ、参加者の皆さんは森の中でのさわやかな一日を存分に楽しんでいました。



(2) シンボルマーク焼印入り間伐材製品の配布

県が授産施設に依頼し作成した間伐材製品と緑環境税の制度等を記載したチラシをイベントや森づくり活動等において配布、PRすることで県民への緑環境税の周知を図りました。